

焼走りにて

森内詩紋

焰のままに黒く凝った
ザキザキとした鎔岩に
薄くついている苔は
修羅を養うパンなのです

白緑色でごく軽く少し内から光っている
清くて淨い聖餐です

二百九十余年をかけて
イーハトーヴの風の中
うみだされてきたこのパンを
たいへんに濃い山霧の
ミルクとともに食べるのは
なんと豊かなことだろう

さびしさはこの食卓で
やさしさへと割かれます

……あ、何処からか苹果の香り